

県では、「新・群馬県総合計画」ビジョンを令和2年12月、基本計画を令和3年3月に策定し、「年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、全ての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会」を目指す姿としています。

本計画においても、総合計画を推進するため、「県産木材による自立分散型社会」を本県の森林・林業が目指す姿として取り組んできました。

中間見直しにおいては、将来ビジョンの見直しは行いませんが、今後5年間で重点的に実施する施策を明確にし、ビジョンの実現に向けて取り組みます。

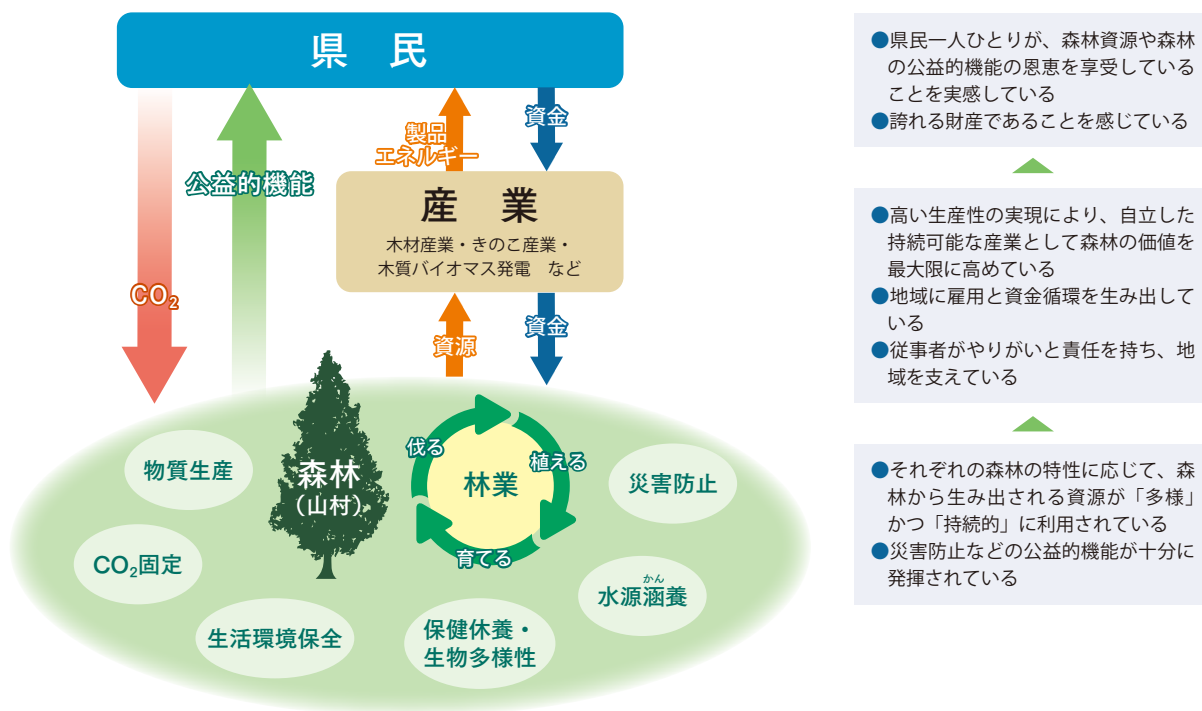
県産木材による自立分散型社会の実現

～資源と資金が林業で循環する社会～

持続可能な林業が充実した森林資源を活かすことにより

森林の多様な価値が最大限に発揮され

資源と資金が県内で循環しています



県内の森林資源が充実し、活用の時代を迎えている一方で、高コスト体質のままでは、森林の持続的な利用に限界があるという現状を踏まえ、将来ビジョンを策定しました。

森林資源を育みながら利用する林業が、持続可能な産業となり、また生み出される資源を製品やエネルギーとして県民に届ける森林関連産業もまた、持続可能な産業となるために、施策の大胆な見直しと構造改革により産業としての自立を実現することとしています。

この将来ビジョンを実現するため、見直しのテーマと重点プロジェクトを定め取り組みます。